

寓話『3人のレンガ積み職人』

世界中を旅している人が3人のレンガを積んでいる人に出会い、それぞれに「あなたはここで何をしているのか？」と訊ねた。

- ・すると一人は「見ればわかるだろ？レンガを積んでいるんだよ」と答えた。
- ・もう一人は「ここで大きな壁を作っているんだよ」と答えた。
- ・三人目は「俺達は歴史に残る大聖堂を造っているんだよ」と答えた。

私たち、風早中で何をしているのか？

⇒『子供達が将来よりよい社会を築き、幸せに生きるための資質・能力を育む！』

令和7年度 学校経営方針

柏市立風早中学校

<学校教育をとりまく社会的背景>

- ・21世紀は、グローバル化、情報通信技術の進展、少子高齢化、AIに代表される絶え間ない技術革新など急激に社会は変化している。また、新型コロナウイルス感染症によるパンデミックや軍事侵攻など、これまで想像もしていなかつたことが突然に起きる、まさにVUCA (Volatility (変動性), Uncertainty (不確実性), Complexity (複雑性), Ambiguity (曖昧性)) の時代である。
- ・量的拡大を追求してきた成長社会から、精神的豊かさや生活の質の向上を重視する平和で自由な成熟社会へと移行し、自己実現を目指して生き方が多様化し、物事の価値や判断を個人が行い、個人が責任を負う状況へと変化している。



<求める資質・能力>

- ・こうした変化を乗り越え、一人一人が豊かな人生を追求し、よりよい社会を実現するため、高い志や意欲を持つ自律した人間として、意見や立場の異なる他者と協調しながら、未来を切り開いていく力を身につけることが必要である。
※ 「**自律**」とは、自分で考え、判断・決定して、進んで行動すること、夢や目標を持ち、その実現に向けて、自己の感情や行動をコントロールしながら粘り強くやり抜くことと考える。また、自分でできることは自分で、できないことは他者に助けを求めて解決することも必要である。
※ 「**協調**」とは、自分の良さや可能性を自覚し、あらゆる他者を自分と同じように大切な存在として尊重しながら、知恵や力を合わせて、よりよく問題を解決したり、よりよいものを創り上げたり、成し遂げたりすることと考える。

1 校訓 『さわやかな風の吹いてやまない学舎』

④さわやかな笑顔 ⑤和のある仲間 ⑥躍動する心と体 ⑦課題の自己解決

2 学校教育目標

『心豊かで、主体的に行動する生徒の育成

～よりよい社会を築き、幸せに生きるために～』

風早中学校の3年間は「社会に出るための準備期間」である。子供達には将来、よりよい社会を築き、その中で一人一人が幸せな人生を歩んでほしいと願う。そのために必要と思われる資質・能力を育むのが我々の役割である。身につけるべき資質・能力は「主体性」、「協調性」、「自律」、「知性」などを始めとする教育の不易と、変化する社会のその時々で求められる教育の流行など多種多様である。それらの資質・能力は、任せや指示待ちの行動よりも、当事者意識を持って自ら進んで活動に取り組む（主体的に行動する）とき、伸びる可能性は最も高まると考える。また、一人一人が当事者意識を持って行動することで集団の質も高まるので、よりよい社会を築く経験値ともなるはずである。そして、一人一人が安心して気兼ねなく自分の考えや意見を言ったり、物事に挑戦したりするような主体的な行動をするためには、思いやりや人権意識などの豊かな心を持って周りにいる人が支えることも必要である。

子供達が築く「よりよい社会」とは、教育基本法第1条にある、平和で民主的な社会であり、学習指導要領では持続可能な社会の実現が謳われている。「よりよい社会」の実現のためには、一人一人が当事者意識を持って社会に参加し、立ちはだかる課題に対して、自分事として捉え、自ら考えるとともに、あらゆる他者を自分と同じように大切な存在として尊重し、コミュニケーションしながら協働して最適解を導き実行して解決を図っていくことが求められる。

（主体性と協調性）

また、一人一人が「幸せに生きる」ためには、自分に自信を持って物事に取り組むための自己肯定感を獲得し、なりたい自分になるために夢や目標の実現に向かって粘り強くやり抜く意志力を身につけることと、その過程で幾度となく立ちはだかる困難やストレスを乗り越えていく折れない心を身につけることが必要である。（自律）

そのための基盤となる資質・能力として、物事を筋道立てて考える論理的な思考力や多角的・多面的で柔軟な思考力、自らの適切な判断力、他者に分かりやすく伝え納得が得られる表現力等を駆使して解決していくための知識と知恵を育み知性を高めていくことが大切である。（知性）

2 めざす生徒像

- (1) 何事にも当事者意識を持って取り組む生徒
- (2) 向上心を持って、学び合い、高め合う生徒
- (3) 自律して、最後まで粘り強くやり抜く生徒

3 学校経営理念

子供達が生きる社会は、人々が豊かな心をもち、温かな人間関係を築き、秩序

ある社会を形成し、文明が進歩し続けるものであってほしいと願う。そのような社会の形成者である子供達に、教育の不易としての知・徳・体のバランスのある育成と流行である社会の変化に伴って必要となる資質・能力を育成し、「生きる力」を育むことが風早中学校の使命であると考える。すべては子供達が、将来よりよい社会を築き、幸せな人生を歩むことができるようになるために、学校経営を展開していく。

そのために、「学校は子供達に『良い習慣』をつける場」であるということを基本理念とする。子供達に「良い生活習慣」や「良い学習習慣」を身につけることが「生きる力」の源となる。

「良い生活習慣」として、物事を成し遂げるために必要な自己の感情や行動をコントロールする力、困難や失敗を乗り越える折れない心と粘り強く最後までやり抜く実行力などの「自律」を大切にする。また、コミュニケーションの第一歩であるさわやかな挨拶、自分の良さや可能性を自覚し、あらゆる他者を自分と同じように大切な存在として尊重しながら協働していく態度などの「協調」を大切にする。

「良い学習習慣」として、知的好奇心を持って主体的に学習に取り組み、課題解決のために他者との意見の共有や対話により学びを広げたり深めたりしながら協働的に学ぶ態度を大切にする。学習活動を通して、学ぶ価値や楽しさを実感しつつ、基礎的・基本的な知識・技能の習得と思考力、判断力、表現力を高めていく。

これらのこととは、安心で安全な教育環境の中で育まれるものである。

また、学校は、子供達が生き生きと活動し、自らの能力を最大限に伸ばしうるような場でなければならない。そのために、「教育は人なり」と言われるように、子供達の学びを積極的に支援する教職員は、絶えず学校の教育目標を達成しようとする学校運営の当事者意識を持ち、質の高い指導力を備え、何よりも子供達に信頼される人間であるべきと考え、研究と修養を重視する。

さらに、保護者や地域住民も加わって活気のある教育活動を展開し、総がかりで子供達を育てる学校づくりを、計画的、継続的、組織的に推進し、信頼される魅力ある風早中学校を目指す。

4 経営方針

(1) 全職員参画の学校経営

個々の職員が学校運営の当事者として関わり、教育活動を計画的、継続的、組織的に推進する。「全体は部分の総和に勝る」をモットーに、親和的で協力的なチームとして学校運営に当たる。

(2) 「自律と協調」を育む教育の推進

未来の社会をよりよく生き抜くために重要な能力としての「自律」と「協調」を育む。

(3) 個に応じた指導・支援の充実

個々の生徒の状況を適切に把握して、個に応じた最適な指導・支援の在り方を考え、実施する。

(4) 校内の環境整備と安心と安全の確保

生徒の情操を育む場に相応しい清潔感のある学校づくりに努める。心理的

安全と身体的安全の適切な管理と指導に努め、問題の未然防止、早期発見、早期解決を図る。

(5) 自己研鑽、OJT、Off-JTの奨励

教職員は最大の教育環境であることから、質の高い指導力を備え、何よりも生徒に信頼される人間であるよう、研究と修養に励む。

(6) 開かれた学校の推進

小学校、保護者、地域との連携による教育活動を展開する。また、積極的に学校の情報を発信し、理解と協力を得る。

5 めざす学校像

- (1) できる、わかるようになる喜びがある学校
- (2) 良き仲間と信頼できる先生がいる学校
- (3) 自分のよさや持ち味を存分に発揮できる学校

6 めざす教職員像

- (1) 生徒の気持ちに寄り添い、成長を支援する教職員
- (2) 魅力ある授業を目指して、創意工夫する教職員
- (3) 常に連携し、協働できる教職員

7 取組の重点項目

(1) 『知識と知性』を育む取組

子供達が大人になったときに必要な知識と知識を基に考え判断する能力である知性を身につけるために、「何ができるようになるのか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」を重視し、「わかる授業」を工夫しながら指導・支援していく。一時間一時間の授業の中で、「なぜ」「どうして」「どうやったら」という疑問を持って、疑問を解決するために、自分で、そして仲間と考えながら、自ら進んで学習することで確かな学力の育成を図る。

また、夢や目標を持つことは、毎日の努力を積み重ねて、現実をよりよくしようとする気持ちを生む。夢や目標の実現に向かって、小刻みな努力の一つ一つが結果となって現れたときの生徒の満足感は、自分への自信と勇気となり、次の活動への意欲につながる。たとえ困難や失敗はあっても、それを乗り越え最後までやり遂げる強い意志が、自分の可能性を伸ばし、人生をよりよく生きる原動力となることを日頃から指導・支援していく。生徒一人一人が伸び伸びと自分の良さを発揮できるように工夫して取り組んでいく。

○学習規律と学習習慣の定着

- ・授業規律の確立（「授業を充実させるポイント」に基づく授業展開）
- ・学習への取組の質の向上（学習計画表、成果に結び付く自主学習の工夫改善）

○基礎・基本の確実な定着

- ・わかる授業の実現（授業の「目標」の明確化と理解を深める「まとめ」と「振り返り」の実施、アウトプットする場面の設定、個々の生徒の学力状況に応じた指導、TTによる少人数の数学指導、学習内容定着のための手だての工夫）
- ・予習・復習の機会の確保（デジタルドリルの活用、全校一斉テスト、試験前・長期休業中の学習会）

○思考力・判断力・表現力を育む教育の推進

- ・「主体的・対話的で深い学び」の授業実践（問題解決型授業、知的好奇心を高める教材の研究、考えを広げ深める対話的、協働的な学び合いの実施）
- ・思考・判断・表現する場面の設定（「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラム（見出す⇨自分で取り組む⇨広げ深める⇨まとめあげる）による授業展開）
- ・ＩＣＴの効果的利活用（学びの広がりと深まりを促進する一人一台端末の活用）

○キャリア教育の推進

- ・夢や目標を持つことによる学ぶ目的の明確化（職業人講話、職業体験、上級学校体験）
- ・将来の生き方を考えることによる現在の生活の向上（「キャリアパスポート」の活用、生き方講話会）

（2）『主体性と協調性』を育む取組

中学生は、心と身体がめざましく成長し、活力にあふれ、どんなことにも積極的に取り組める時期である。しかし、自分のわがままや衝動のままに行動してしまう危うさがある時期でもあるため、社会規範を身につけるとともに、規則正しい生活習慣を築き、自分をコントロールする強さを持って中学校生活を送ることが大切である。また、問題をよりよく解決したり、物事をよりよく成し遂げたりするためには、一人一人が当事者意識を持って取り組むとともに、多種多様な他者と協働することも不可欠である。さらには、困難な状況にも挫けすことなく、しなやかに適応していく折れない心を身につけ、諸活動に粘り強く取り組みやり抜く意志力も必要である。生徒の内面に迫り、生徒理解に基づいて指導・支援に取り組んでいく。

○社会規範を守る態度の育成

- ・基本的生活習慣の確立（挨拶をする、時間を守る、約束を守る、人の話を聴く、身なりを整える、身の回りを整理整頓する指導）
- ・道徳的実践力を育む道徳教育の実施（考え、議論する道徳授業、教育活動全般を通した道徳指導）

○自律を促す生徒指導の実施

- ・理解と納得を得る生徒指導（決まりや約束の意義の理解と見直し、「学びの雰囲気」「安心と安全」「清潔感」の保持に基づく指導、問題行動の全体共有と即時対応）
- ・生徒に寄り添った自己指導力の育成（「傾聴する⇨自己決定を促す⇨必要な支援をする」を原則とした指導）

○生徒が主体的に取り組む自治的活動の実施

- ・当事者意識を持った自主的・自発的な行動力の育成（一人一人が活躍できる場の設定、ティーチング・コーチング・エンパワーメントの段階を踏んだ支援、自ら課題を見つけ、解決に向けて考え方行動する活動の実施）
- ・自己肯定感・やり抜く力の育成（適切な達成目標の設定、失敗を恐れずに挑戦し、最後までやり遂げる支援、努力へのタイムリーな賞賛と激励（声掛け）成功体験により達成感を味わう支援、）
- ・リーダーシップとフォロワーシップの育成（生徒主体の学級活動、学年活動、生徒会活動、委員会活動、学校行事、部活動の展開の工夫）

（3）『安心と安全』を確保する取組

子供達の健やかな心身の成長を図るためにには、よりよい教育環境を整えるこ

とはとても大切である。心理的にも物理的にも居場所があり、理解者がいて、安心・安全で自由な空間があれば、子供達は学校に来て学び生活することができる。

人的環境である教職員は人間性豊であるべく常日頃から意識を高く持つとともに、一人一人の生徒に丁寧に寄り添いながら支援していく。また、生徒相互の人間関係においても、誰もが気兼ねなく安心して自分の思いや考えを述べたり、挑戦したりすることができるような、あらゆる他者を自分と同じように大切な存在として尊重する優しく豊かな学校風土を醸成していく。物的環境である施設・設備は安全な管理に努めるとともに、安心して学校生活が送れるよう危機管理体制を整備する。

「命」は何ものにも代えがたいものであり、自他の命を大切にするという最も基本的な意識を育むために、様々なアプローチを工夫しながら指導・支援に取り組んでいく。

子供達をとりまく社会環境は大きく変化しており、教育は学校だけで完結することは到底不可能であり、家庭や地域社会の人々との交流や支え合いがあつてこそ達成できるものである。家庭・地域との連携を深めつつ、指導・支援に取り組んでいく。

○心理的安全（安心）の確保

- ・生徒相互の絆づくり（「わからない」「できない」と言える学級づくり・安心して気兼ねなく自分の考えを述べたり、挑戦したりできる失敗を許容する学級づくり）
- ・教職員と生徒の絆づくり（生徒の心情への共感と理解、教育相談、精神的なサポート、成長を促す助言、生徒と向き合う時間を確保する働き方改革、不祥事根絶）
- ・自他の命を大切にし、互いに思いやり、認め合う人権意識の醸成（人権教育講演会、命の授業、発達段階に応じた性教育、いじめ等アンケート、脱いじめ傍観者教育、SOSの出し方教育）
- ・一人一人の生徒の居場所づくり（風早サポート教室、個別支援教員、SC、SSW、関係機関と連携した支援、個々の教育的ニーズに応じた支援）

○身体的安全（安全）の確保

- ・生活安全教育の実施（整理整頓された清潔な学校、施設設備の安全点検、エピペン講習、救命救急講習、情報モラル教育、薬物乱用防止教室）
- ・防災安全教育の実施（シェイクアウト訓練、避難訓練、震災学習）
- ・交通安全教育の実施（登下校の安全指導、交通安全教室）

○地域・家庭に開かれた学校づくり

- ・積極的な学校公開（学校行事参観、授業参観）
- ・保護者との密な連携（保護者会、保護者面談、日頃の密な連絡による情報交換）
- ・学校情報のこまめな発信（連絡メール、HP、各種通信、学校評価結果の活用と公表）
- ・地域・保護者と連携した学校運営（学校運営協議会、PTA活動、地域活動への参加、小学校との連携）